

平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	181001	学校法人名	金井学園		
大学名	福井工業大学				
事業名	『宇宙』事業推進のために地域と協働する“ふくいPHOENIXプロジェクト”				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	2080人
参画組織	地域連携研究推進センター・工学部・環境情報学部				
審査希望分野	人文・社会系	○	理工・情報系	○	生物・医歯系
事業概要	<p>◆本学は、北陸最大の直径10mパラボアンテナ等を備え、『宇宙』利用研究をブランドとしてきている。一方、福井では平成31年度の県民衛星打ち上げを目標に衛星開発計画が推進されると共に、駅前に『宇宙』をテーマとする大型施設が建設された。このような背景から地域と本学が連携しながら、本事業によって『宇宙』に関するブランド力を向上することにより、福井での『宇宙』を基盤とする産業育成、観光・文化の振興に繋げる。</p>				

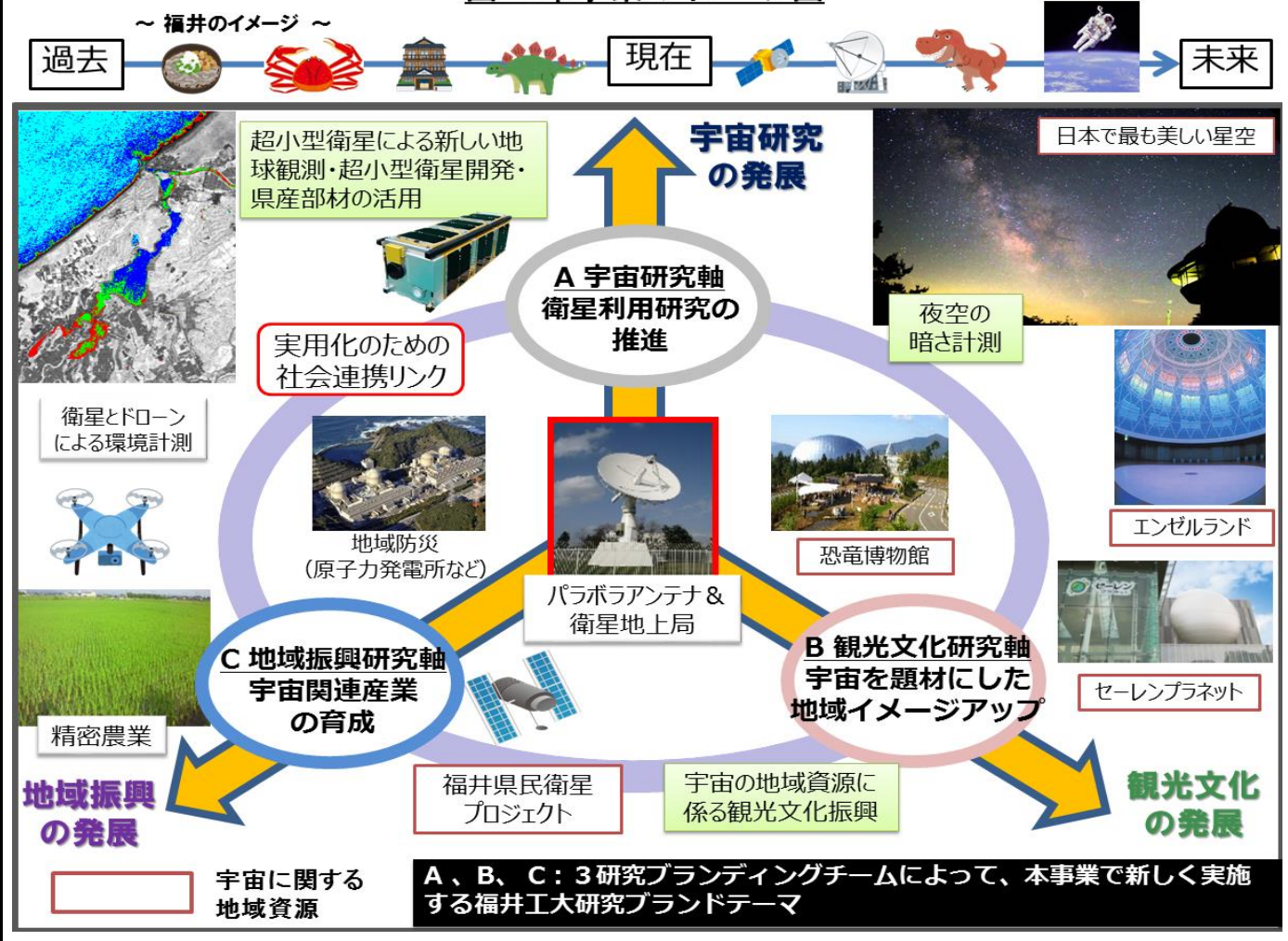
イメージ図

◆事業名“PHOENIXプロジェクト”は、3つの危機（戦災・震災・九頭竜川の洪水）を乗り越えた福井の市民憲章「不死鳥のねがい」に基づいている。人口減少・少子高齢化等を今日的危機として捉え、福井の地域の力により持続的・独創的な発展に寄与する。



不死鳥のねがい
(福井市・市民憲章)

図1:本事業のイメージ図



2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的

◆**事業の目的**◆『宇宙』を地域イメージに加え、観光文化・地域振興の実現を目的に、研究ブランディング事業を次の(A)(B)(C)の3方向で推進する。(A)衛星利用研究基盤を活用・発展させ、宇宙関連研究の独自性を明確に打ち出す。(B)地域の観光・文化の目玉として宇宙を取り入れる。(C)新しい地域産業として宇宙関連産業の育成を図り、縦横断的に地域活性化の方策を導く。

◆**外部環境、社会情勢に係る現状・課題の分析**◆福井では恐竜・繊維・眼鏡等の全国的ブランドと連携し次世代に発展させる新しいブランドが求められている。今年度、福井駅前に「セーレンプラネット」（福井市自然史博物館分館）が開館、自治体初の超小型衛星「福井県民衛星」プロジェクトが始動、県と企業主体の「宇宙産業創出研究会」、経済産業省に認可された「福井県民衛星技術研究組合」が設立される等、宇宙を新しいブランドとする地域創生への挑戦が始まっている。一方、県立児童科学館「エンゼルランド」（初代館長 毛利宇宙飛行士）、大野市の「日本で最も美しい星空」等の独自の宇宙関連資源が多くあるが連携が弱い上、宇宙と他の資源を繋げる新しいブランディングが重要であり、まちづくり・デザインの観点も含めた宇宙関連地域資源の価値の再認識・充実化、他資源との連携の検討が必要である。

◆**現状・課題の分析**◆現況においては、①直径10mの大型パラボラアンテナを擁する衛星地上局を核とした衛星データによる地域環境計測および超小型衛星受信局としての研究成果は北陸地域唯一のもので福井県民衛星プロジェクト発足の要因であり、県内企業の宇宙産業進出支援への期待が大きい。②福井市が設置したセーレンプラネット検討委員会に本学教員が参加し、宇宙による教育・観光推進への貢献が期待されている。③全国的には超小型衛星コミュニティ（大学宇宙工学コンソーシアム；UNISEC）から衛星地上局として注目されている。④従来から全学的に社会貢献活動に注力しており、①～③をまちづくりやデザイン等の分野へ敷衍する下地が熟成されている。課題は、衛星地上局の活用が他機関の衛星データ受信に留まっており能動性に欠け、地域創生の原動力としては弱いため、その解決に向け高速通信可能な10m大型パラボラアンテナならではの構想可能な先進的な超小型衛星開発と、ドローンも活用した地域環境計測により地域社会を牽引し、まちづくり・デザイン系分野と連携したブランディング強化を行う。

◆**大学のブランドとして選択した理由**◆上記の通り、『宇宙』産業の育成や『宇宙』を利用した青少年の育成を目指している地域からの本学への期待は大きい。博物館や児童館を通じた地域自治体との連携や研究会等を通じた地元企業との繋がりは、地域に生き、社会連携を推進する本学の使命でもある。

◆**大学のブランドとして打ち出すための研究テーマ**◆次の3つの研究軸に沿った事業（図1）を推進する。(A) **宇宙研究軸**—10mパラボラアンテナなどを利用した衛星利用研究の推進、県内企業で製造された部材を搭載した超小型衛星開発、超小型衛星による軌道実証とハイパースペクトルカメラによる先進的な地域環境観測を行う。(B) **観光文化研究軸**—「恐竜博物館」「エンゼルランド」「セーレンプラネット」と連携し、宇宙を題材にした地域資源の発掘・深化を進め、観光・文化の振興に繋げて、交流人口増大や地域イメージアップに発展させる。(C) **地域振興研究軸**—研究成果を地域防災、宇宙関連産業の育成、精密農業などに応用展開するとともに、基盤技術の地域への普及と地域人材の育成を行う。

（2）期待される研究成果

図1の3つの研究ブランディングチームは、本学が研究費を重点配分する本年度の“学内特別研究費”の研究課題を基に2学部7学科の参加により再構成されたもので、本事業の一部はすでに着手されている。

(A) 宇宙研究軸—衛星利用に関する基盤技術の確立と先進的な超小型衛星の開発設計および運用

【期待される成果】①先進的な超小型衛星の開発（日本初3Uおよび6Uサイズの超小型衛星の精密な姿勢制御技術の構築、10m大型パラボラアンテナによる高速通信の実証、ハイパースペクトル観測の実施）、②県産部材の宇宙軌道実証、③福井県民衛星など他の超小型衛星の運用協力

【成果の測定方法】①超小型衛星による指定した地域のハイパースペクトル観測の成功、②宇宙における県産部材の性能・実用性、③福井県民衛星など他の超小型衛星のデータ受信・配信の成功

【貢献・寄与する範囲】福井県民衛星プロジェクト、宇宙産業創出研究会、福井県民衛星技術研究組合

(B) 観光文化研究軸—「セーレンプラネット」などの自治体施設の活性化等による観光・文化の振興

【期待される成果】①セーレンプラネットなど宇宙関連施設でのドームシアター、大型モニターでの展示内容に応じた魅力ある宇宙コンテンツ制作、②夜空の暗い地域の同定による星空が美しい「天の川ロード」地域の決定、③平成27年度ふるさとづくり大賞で総理大臣賞受賞の小原ecoプロジェクトにおける民家「宇宙カフェ」再生、④「恐竜と宇宙」の組合せによる新しい観光・都市戦略提言

【成果の測定方法】①経年的な好感度等アンケートの実施、「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」の登録人数（ファン）、宇宙関連施設の入場者数、ホームページへのアクセス数・ツイッターのフォロワー数、②勝山市北谷地区の交流人口増加、③県および市の観光・都市戦略における提言・政策反映に基づく観光ツアー・商標・特産品等の開発・実現

【貢献・寄与する範囲】福井県等の連携自治体、宇宙関連施設、恐竜博物館等

(C) 地域振興研究軸—研究成果を県内自治体の産業活性化と防災対策の推進に繋げる

【期待される成果】①地域防災（原子力発電所含む）、鳥獣害被害予測、水稻など農産物生育診断、沿岸海域の海水温・漂流ゴミ・赤潮観測に係る衛星データ活用法の確立、②新しいブランド米生産への貢献、衛星とドローンの連携による農地・森林・沿岸海域の効率的モニター等、共同研究・新規事業の実施、③福井県民衛星プロジェクトに対する衛星情報利活用の手法提案

【成果の測定方法】①県および市のホームページにおける衛星データに基づく関連情報発信の導入、衛星情報発信の継続性・情報更新の頻度、②共同研究数、新規事業数、「宇宙産業創出研究会」の参加企業数、③福井県民衛星プロジェクトにおける提案手法の採用、福井県民衛星2号機の計画策定への貢献

【貢献・寄与する範囲】福井県等の連携自治体、ふくいオープンイノベーション推進機構、原子力・農林水産業関係団体、福井県民衛星プロジェクト、県内大学・高専等研究機関

◆自己点検・評価および外部評価の実施体制◆

本事業は、地域連携研究推進センター運営委員会で研究者組織(研究ブランディングチーム)を構築、研究計画を立案する。研究ブランディングチームの各研究者は相互に毎月進捗状況を検討し、毎年“報告書”を学部長会議と外部評価委員会に提出して評価を受ける。それらの結果は“点検・評価書”として纏められ、大学の最高議決機関である大学運営協議会に提出されて、実施の可否、改善の指導、次年度計画改善指示が検討される。これらの結果に基づいて、地域連携研究推進センター運営委員会に次年度の計画書の作成が指示される。なお、外部評価委員会は年1回開催する予定である。

(3) ブランディングの取組

◆研究の独自色や社会的意義を学内外に広報する方法◆

3つの研究軸の研究成果に基づく以下の広報によりブランディング向上を図る。

【基本的広報】学外には大学・連携自治体・県内関係機関のホームページ・SNS・新聞TV、一般市民向け公開講座（年1回開催予定）、学内には課題解決型授業、卒業研究、大学院研究への展開を実施する。

【本事業および地域の特色による広報】社会連携・共同研究に基づく以下の広報を実施する。

1. 衛星データ利用・超小型衛星開発に基づく広報：①ふくいオープンイノベーション推進機構の枠組みにおける企業・大学・高専との共同研究・新規事業に関する年度報告会での研究発表、②セーレンプラネット・エンゼルランドの展示スペース・ドームシアター・大型モニターでの企画展示、③衛星開発現場の一般公開、（以上、年1回実施）、④国際シンポジウムの開催（31年度予定、500名規模）
2. 衛星地上局が設置されている本学あわらキャンパスにおける催事による広報：①大学宇宙工学コンソーシアムのワークショップ開催（30年度目標に誘致、200名規模）、②衛星地上局一般公開の実施（年1回、100名規模）、③日本ボーイスカウト福井連盟による宇宙キャンプ（年1回、100名規模）
3. 福井経済同友会・商工会議所の支援による市民参加型団体「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」立ち上げによるファン獲得：宇宙と小原ecoプロジェクトなど他の地域資源とを組み合わせたイベント実施による広報
4. 「恐竜」「星空」「宇宙・サイエンス」による新しい観光・都市戦略に基づく提言冊子、リーフレット等による広報
5. 地方創生推進事業（COC+；県内5大学）における広報：大学連携推進センターにおける一般市民・他大学生向けの講義・講演（毎年度の講義開設を予定）

【海外への展開】本学はこれまで、海外大学との交流協定に基づき、相互訪問やジョイントシンポジウムを実施してきた。本事業においても、特に明知大学（韓国）、ネーション大学（タイ）、ホーチミン市工業大学（ベトナム）を対象に、本事業の成果を活用したジョイントシンポジウムおよび学生の交換留学を実施する（30年度以降に毎年度実施）。

◆本研究ブランディングを大学のブランディングに繋げていく展望◆

これまでの研究成果と豊富な研究設備から、本学のブランド研究としての『宇宙』利用研究の基盤構築はすでに完了し、地域と連携した本事業の推進によって、“『宇宙』研究の中心：福井工業大学”と“『宇宙』研究のメッカ：福井”が広く認知されるようにしたい。そのための上記広報手段によるブランディングを進めるため、学内では、①研究ブランディングチームおよび本学教職員、②本学学生を対象に、全学的ブランドとしての意識共有を図る。また学外では、①地域社会（自治体、企業、大学・高専、宇宙関連施設、その他地域資源、県民）、②超小型衛星コミュニティ（大学宇宙工学コンソーシアム）を想定する。本事業を、これら4つのステークホルダーの広義の協働体制と捉え、研究ブランディング事業の必要性・重要性の理解促進・認知度向上に努める。

直径10mのパラボラアンテナおよび地上受信局などの大型研究設備を有する本学のあわらキャンパスを、『宇宙』を象徴する研究ブランディング拠点の一つとして位置付け、地域に向けその認知度を高める戦略を構築する。同時に近隣の「エンゼルランド」や「セーレンプラネット」などの関連公共施設と連携して地域イメージを高めるよう創意工夫する。さらに、福井県民衛星技術研究組合などの研究開発組織との提携・協力のもと、本事業を推進するための産学官による環境づくりを先導する。近年、超小型衛星の打ち上げが急増し今後も爆発的な増加が予想される中、衛星ビジネスへの挑戦・参入において地域の自治体や企業を牽引する機能が求められ、その役割を福井工業大学が中心となって担っていく。

3. 事業実施体制（1ページ以内）

◆学長のリーダーシップの下、全学的に事業を実施する体制の整備◆

本事業を学長先導で推進するための実施体制を図2に示す。以下その仕組みについて述べる。

【自己点検・評価、外部評価によるPDCAサイクルの整備】

(1) 計画 (PLAN) : 学長との連携の下、地域連携研究推進センター運営委員会が本事業の総合計画を策定する。

(2) 実行 (DO) : “研究ブランディングチーム”が研究を遂行する。この研究ブランディングチームは前述した宇宙研究・観光文化・地域振興の3つの研究軸を担当する研究グループから成り、工学部および環境情報学部 に属する7学科の教員により、研究軸毎に実質的で柔軟性のある協働体制が構築されている。その一部は、本学の特徴的な研究課題として学内研究費を重点的に配分する研究課題（「宇宙をキーワードとした福井県の新しいブランディングの可能性」および「北陸地域の農業活性化に向けた次世代植物生育環境監視・制御技術の研究」）として、工学部：電気電子工学科、建築土木工学科、原子力技術応用工学科、環境情報学部：環境・食品科学科、経営情報学科の教員により既に研究が開始されている。なお、本学における3つの重要基盤「教育」「研究」「社会貢献」と完全にリンクした形で実施される。

(3) 点検・評価 (CHECK) : 各学部の学部長で構成される学部長会議によるピアレビュー、および県内各機関および外部の有識者によって構成される「外部評価委員会」によって行われる。

(4) 次年度計画改善指示 (ACTION) : その点検・評価書に基づき、学長が長を務める大学運営協議会において実施可否・改善指導・の検討が行われ、その指示に従って学長との連携の元で地域連携研究推進センター運営委員会が次年度の計画 (PLAN) の策定に移る。

このPDCAサイクル機能は学長の管理下に置かれ、学長の強いリーダーシップの下、全学的に事業を実施する体制を堅持する。

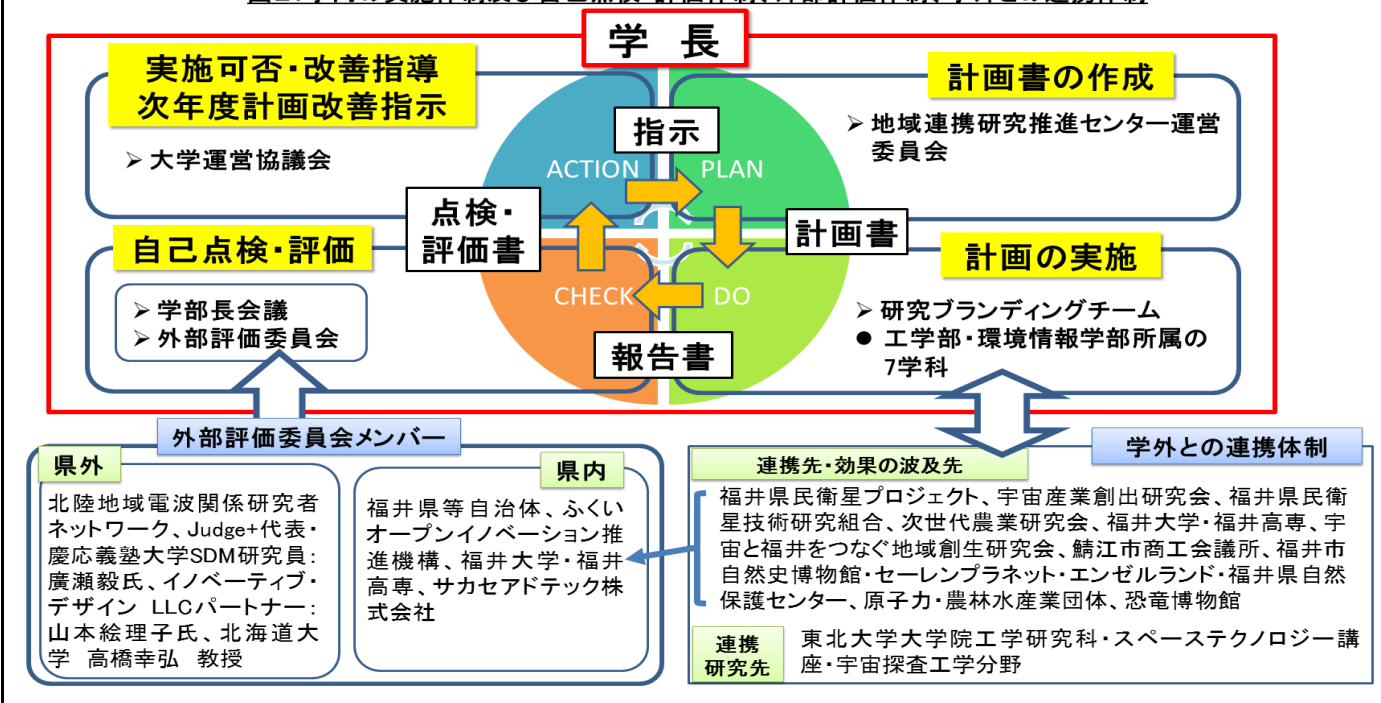
【学外との有機的連携】

(1) 実行 (DO) における連携先および成果の波及先 : 図中に挙げた県内の多数の機関・団体があり、裾野の広い実質的な連携・波及が大いに期待される。

(2) 実行 (DO) における連携研究 : UNISEC所属の東北大学大学院工学研究科・スペーステクノロジー講座・宇宙探査工学分野と連携して研究を実施する。具体的には、本事業における超小型衛星の開発ならびに東北大学が開発する超小型衛星RISERAT、およびDIWATA-1の運用において協働する。この協働は、過去、超小型衛星RAIKOの運用で協力関係を構築した坂本祐二・特任准教授との連携を基に実施する。

(3) 点検・評価 (CHECK) : 外部評価委員として各連携・波及先の意思を代表する組織・機関が参加しており、連携・波及先の意見を取り入れる仕組みが構築されている。加えて、県内企業の代表として宇宙関連ビジネスに実績（探査衛星ハヤブサのアンテナ開発等）のあるサカセアドテック株式会社の協力を得て、民間企業の実用性に基づいた意見を取り入れる。県外からの視点も重要と考えており、観光文化・地域振興に繋がる福井のブランディングについて、多大なマーケットである大都市圏の視点から評価を考慮するため、慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科等の意見も取り入れる。技術面では、超小型衛星および衛星・ドローンによるリモートセンシング分野の北海道大学・高橋幸弘教授に見解を仰ぐ。最後に北陸地域への貢献を視野に、北陸総合通信局が主催し北陸地域の電波に関する研究者・企業で構成される「北陸地域電波関係研究者ネットワーク」への参画を図る。

図2: 学内の実施体制及び自己点検・評価体制、外部評価体制、学外との連携体制



4. 年次計画（2ページ以内）

平成28年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究：超小型衛星開発の環境整備・1号機的设计 ◆(B)観光文化研究：①基盤組織の立ち上げ・連携体制の確認、②観光・都市戦略の課題整理 ◆(C)地域振興研究：①衛星データによる地域環境情報配信の準備、②共同研究テーマの検討 ◆ブランディング：①学内における全学的ブランドとしての意識共有、②本事業開始の学外への周知
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究◆クリーンルーム設置・必要機材購入による超小型衛星開発の環境整備および1号機的设计 ◆(B)観光文化研究◆①基盤組織「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」立ち上げ・宇宙関連施設および他の地域資源との連携体制確認、②左記の基盤組織および連携体制に基づく観光・都市戦略の課題整理 ◆(C)地域振興研究◆①衛星データ配信準備、②自治体／大学／高専／企業との地域連携・共同研究テーマの検討、③福井県民衛星プロジェクトとの情報交換 ◆ブランディングの取組◆①研究ブランディングチームの体制・主旨の再確認、②福井工大公開講座「あなたも宇宙に手が届く～福井に身近な宇宙とその展望～」開催（12月17日に実施決定）、ホームページ・SNS・広報誌発行・マスコミによる広報（以降の毎年度に実施） ◆測定方法◆PDCAサイクルにおける点検評価書・福井工大公開講座におけるアンケート実施（以上を、以降の毎年度に実施）、観光・都市戦略課題整理の研究報告書作成
平成29年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究軸：①超小型衛星1号機の開発、②衛星地上局の整備運用 ◆(B)観光文化研究軸：①宇宙関連地域資源の価値の再認識、②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベント、③観光・都市戦略における課題解決法の提案 ◆(C)地域振興研究軸：①衛星データによる地域環境情報配信の開始、②自治体／企業／大学／高専等との共同研究の開始 ◆ブランディング：地域社会（自治体・企業・大学・高専・県民）での認知度向上
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究◆①超小型衛星1号機の製作・県産部材の搭載検討、②あわらキャンパスにコマンド送信局を設置、東北大学の超小型衛星の運用協力を実施 ◆(B)観光文化研究◆「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における①夜空の暗さ計測の実施、および②宇宙関連施設における展示コンテンツの制作、小原ecoプロジェクトにおける再生古民家での「宇宙カフェ」の試験実施等に基づく③観光・都市戦略課題の解決法の検討・提案 ◆(C)地域振興研究◆①衛星データによる地域環境情報の配信システム構築、②自治体／大学／高専／企業向けセミナーの実施による地域連携・共同研究テーマの決定および実施、福井県民衛星プロジェクトとの情報交換 ◆ブランディングの取組◆超小型衛星開発現場および本学あわらキャンパス衛星地上局システムの公開・福井工大公開講座・大学連携センター講座（4～10月に適宜実施）、日本ボーイスカウト福井連盟によるキャンプ（8月）、セーレンプラネット／エンゼルランドにおける展示（10～12月）、年度報告会の実施（3月）、以上を以降の毎年度にも実施 ◆測定方法◆年度報告会における評価アンケート・「宇宙とふくいをつなぐ地域創生研究」会員登録人数・セーレンプラネット／エンゼルランドの入場者数・ホームページへのアクセス数およびツイッターのフォロワー数計測・「宇宙産業創出研究会」への参加企業数（以上を、以降の毎年度に実施）
平成30年度	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究軸：①超小型衛星1号機の打上げ・運用、②他の超小型衛星の運用協力 ◆(B)観光文化研究軸：①宇宙関連地域資源の価値の再認識、②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベント、③観光・都市戦略における課題解決 ◆(C)地域振興研究軸：①衛星データによる地域環境情報の配信方法の改善、②共同研究の継続実施 ◆ブランディング：全国的な認知度向上
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ◆(A)宇宙研究◆①超小型衛星1号機の国際宇宙ステーションからの放出および運用、県産部材の宇宙軌道上実証、地域環境計測の実施、②超小型衛星RISAT・DIWATA-1・ほどよしの運用協力（以降、毎年度実施）

実施計画	<p>◆(B) 観光文化研究◆「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における①夜空の暗さ計測の実施、および②宇宙関連施設における展示コンテンツの制作、小原ecoプロジェクトにおける再生古民家での「宇宙カフェ」の本格的実施等に基づく③観光・都市戦略課題の解決法の実行</p> <p>◆(C) 地域振興研究◆①衛星データによる地域環境情報の配信方法の改善、②自治体／大学／高専／企業向けセミナーの実施による地域連携・共同研究の継続実施、福井県民衛星プロジェクトとの情報交換</p> <p>◆ブランディングの取組◆あわらキャンパスにおける大学宇宙工学コンソーシアムのワークショップ開催（12月）、本学の海外連携協定に基づく海外連携大学とのジョイントシンポジウム・留学生受け入れの実施</p> <p>◆測定方法◆29年度と同じ</p>
平成31年度	
目標	<p>◆(A) 宇宙研究軸：①超小型衛星2号機の開発、②福井県民衛星含む他の超小型衛星の運用協力</p> <p>◆(B) 観光文化研究軸：①宇宙関連地域資源の価値の再認識、②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベント、③新しい観光・都市戦略の提言・観光ツアープランの立案・商標・特産品等の開発</p> <p>◆(C) 地域振興研究軸：①衛星データによる地域環境情報配信システムの完成、②共同研究の継続実施・新規事業の開始</p> <p>◆ブランディング：国際的な認知度向上</p>
実施計画	<p>◆(A) 宇宙研究◆①超小型衛星2号機の製作・県産部材の搭載検討、②福井県民衛星の運用協力</p> <p>◆(B) 観光文化研究◆「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における①夜空の暗さ計測に基づく「天の川ロード」地域の決定、および②宇宙関連施設における展示コンテンツの制作、小原ecoプロジェクトにおける再生古民家での「宇宙カフェ」の本格的実施等に基づく③観光・都市戦略の提言および恐竜博物館・旅行代理店との連携による観光ツアープランの立案・商標・特産品等の開発</p> <p>◆(C) 地域振興研究◆①衛星データによる地域環境情報配信システムの完成、②自治体／大学／高専／企業向けセミナーの実施による地域連携・共同研究の継続実施および新規事業の開始、福井県民衛星プロジェクトとの情報交換</p> <p>◆ブランディングの取組◆超小型衛星関連の国際シンポジウムの開催、本学の海外連携協定に基づく海外連携大学とのジョイントシンポジウム・留学生受け入れの実施</p> <p>◆測定方法◆29年度と同じ</p>
平成32年度	
目標	<p>◆(A) 宇宙研究軸：①超小型衛星2号機の打ち上げ・運用、②他の超小型衛星の運用協力</p> <p>◆(B) 観光文化研究軸：①宇宙関連地域資源の価値の再認識、②宇宙関連施設・他の地域資源との連携イベント、③観光・都市戦略提言に基づく観光ツアープラン企画実施</p> <p>◆(C) 地域振興研究軸：①地域環境情報配信システムによる情報配信の継続、②共同研究・新規事業の継続実施</p> <p>◆ブランディング：本学の研究ブランディングの定着、福井の『宇宙』による新しいブランディングの基盤構築</p>
実施計画	<p>◆(A) 宇宙研究◆①超小型衛星2号機の打ち上げ・運用、県産部材の宇宙軌道実証、ハイパースペクトルカメラによる先進的な地域環境計測の実施、②福井県民衛星の運用協力</p> <p>◆(B) 観光文化研究◆「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」における①夜空の暗さ計測の実施、②宇宙関連施設における展示コンテンツの制作、小原ecoプロジェクトにおける再生古民家での「宇宙カフェ」の継続実施、③提言された観光・都市戦略、観光ツアープランに基づく観光ツアーの企画実施</p> <p>◆(C) 地域振興研究◆①完成した地域環境情報配信システムによる継続配信、②自治体／大学／高専／企業向けセミナーの実施による地域連携・共同研究・新規事業の継続実施、福井県民衛星プロジェクトとの情報交換および福井県民衛星2号機の計画策定への貢献</p> <p>◆ブランディングの取組◆本事業のステークホルダー（研究ブランディングチームおよび本学教職員、本学学生、地域社会（自治体、企業、大学・高専、宇宙関連施設、その他地域資源、県民）、大学宇宙工学コンソーシアム）および国内外の関連研究者の参加による公開最終報告会、本学の海外連携協定に基づく海外連携大学とのジョイントシンポジウム・留学生受け入れの実施</p> <p>◆測定方法◆公開最終報告会における総合評価アンケート実施、「宇宙と福井をつなぐ地域創生研究会」会員登録人数（単年・5年累計）、セーレンプラネットの年間入場者数（単年・5年累計）、ホームページへのアクセス数、およびツイッターのフォロワー数（単年・5年累計）、「宇宙産業創出研究会」への参加企業数（単年・5年累計）</p>